



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1
Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会
印刷：小野印刷

■ 第 102 号 ■

【各薬局での行動】



弘前調剤センター・本部
衆議院強行採決前薬局前で訴えました



弘前調剤センター・本部 毎日朝と夕方の2回、参議院強行採決前には1日3回と反対行動をしました



藤代薬局
忙しい業務の合間を縫って職員総出で反対を訴えました



ファルマ浪岡薬局
津軽医院や地域の方々と共に行動しました



黒石薬局 黒石診療所と共に待合室で患者様に署名活動をし、街頭から反対を訴えたりしました



ファルマ 一ツ谷薬局 五所川原診療所と地域の方々と一緒に毎週火曜日反対行動をしました。ももレンジャーも出動して通行する人々に訴えました

ファルマでは連日戦争法案反対行動に各薬局とも、近隣の津軽保健医療機関と連携し取り組んできました。今回はその様子を中心にご報告します。

まず弘前調剤センター・本部では朝と夕方に毎日、健生病院前で戦争法案反対行動をしました。参議院本会議で与党が強行採決しようという動きが見え始めてからは、1日3回の反対行動をしました。

藤代薬局では業務の合間を縫って薬局前にて反対行動をし、ファルマ浪岡薬局でも津軽医院、地域の方と協力し街頭にて戦争法案反対

対を訴えました。また黒石薬局では、黒石診療所と連携し、緊急行動として待合室で患者様に戦争法案反対のアピールと署名などに取り組みました。ファルマ一ツ谷薬局では、毎週火曜日に五所川原診療所と地域の方と共に戦争法案反対の街頭演説をしました。

19日未明に参議院本会議にて与党により採決が強行され、「戦争法」が成立してしまいました。しかし私たちファルマの職員は医療人として、憲法違反の戦争法には絶対廃止の姿勢を貫き、廃止になるまであきらめず行動し続けます。

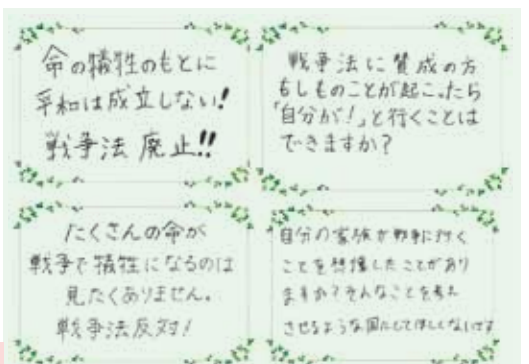
戦争法反対!!

わたしたちはあきらめない

【様々な集会に参加しました】



8月30日(日)国会前行動にも参加しました(後列左から葛西祐一主任、盛葉副師)



9月5日(土)の青森集会に参加した職員のメッセージ



9月11日(金)健生病院前での行動ではファルマ・津軽保健・地域の方々と大人数で戦争法案反対を訴えました



9月5日(土)青森集会には多くの職員が参加しました



9月11日(金)健生病院前 ファルマ職員30人以上が集まり、白衣を着てアピールしました



9月12日(土)弘前駅前りんご広場での集会では戦争立法反対マンが全員そろいました



9月13日(日)青森市アウガ前で雨の中での若者を中心の集会にファルマから4名の職員が参加しました(後列右から須藤薬剤師、鈴木菜夏さん、澁谷薬剤師)



9月18日(金)弘前りんご広場での集会では鈴木菜夏さんがリレートークをしました

薬害根絶デー

弘前調剤センター 薬剤師 木村 太郎



8月23、24日に東京で行われた「2015年度薬害根絶デー」に参加しました。

8月23日には夕食交流会が開催され、自己紹介や薬害根絶デー参加への意気込みなどを発表し合い、他県からの参加者と交流を深めました。

8月24日は薬害対策弁護士連絡会弁護士の水口真寿美先生を講師に迎え、TVや新聞で話題となった子宮頸がんワクチンの安全性・必要性といった基本的な知

識や問題とされている副作用についての講義を受けました。その後厚生労働省前に移動し、子宮頸がんワクチンを始めとしたサリドマイド、薬害エイズといった様々な薬害被害者と支援団体を中心としたリレートークがありました。

今回薬害根絶デーに参加し被害者の方から直接話を聞くことで薬害はその問題となつた薬が使われなくなれば解決するというわけではないということを知り、過去に起こり既に解決したと思われている薬害でも、その被害者の中には今なお後遺症に苦しめられて



厚生労働省の前で

いる人が大勢います。薬害問題を考えるにあたっては、今苦しんでいる被害者を救うことはもちろんですが、新しい薬害・被害者を出さないことも同じくらい重要です。薬の専門家である薬剤師としてこうした悲惨な

薬害を繰り返さないため、そしてみんなが安全・安心に受けられる医療を目指すために過去・現在の薬害について学び、どうしたら防げるのか考え、行動しなければならぬと強く感じました。

古田勝経先生（医療法人愛生館小林記念病院褥瘡ケアセンター）の講演と実践も受けてきました。科学的根拠に基づき、いままです薬剤では治らないとされている褥瘡は、薬の使い方が悪いのであって、適切な薬剤を使用することできれいに治る事例をたくさんみてきました。大変感銘を受けました。その著名な古田先生に11月14日に青森で講演いただくことになりましたので、ぜひ多くの方に参加してほしいです。



出張報告する西沢薬剤師

今回の学習会では大川薬局長、木村薬局長、相馬薬局長、西沢薬剤師の発表を聞き、最後にグループディスカッションを行いました。その中で印象に残ったものを自分なりにまとめました。

これまでは医師の処方に基づき調剤が主な業務でしたが、これからは他職種との連携が重要になり、薬局の中だけでの業務から、患者様の家や介護施設など実際に生活している場所へ行き、より患者様をサポート

する業務へと変化しています。薬剤師の業務が増えていく中、手順を見直すことにより、実際の業務を短縮できた事例を紹介し、普段の業務で改善できることを常に考えていく必要性を感じました。

医師は薬の「効果」に対し評価しますが、薬剤師は「副作用」に対して評価するという言葉が印象的で、これからは配達の際に血圧計や聴診器などを活用することによっていち早く副作用の発見をすることが求め

られています。副作用を減らすために本当に必要な薬は何なのか、少しずつ患者様の負担を減らすよう薬剤師が医師に処方提案するべきだと再確認することができました。

「非合理的に見えても認知症の患者様本人にとつては正当な行動です。」という木村薬局長の言葉に、本人が何を訴えているのかしっかりと傾聴・理解していく必要性を感じました。

今回の勉強会では、今の自分には見えていなかった改善点を見つけることができました。これからも少しでも患者様のために何ができるかを考え続けてよりよいサービスを提供できるように頑張りたいです。



古田先生と相馬薬局長(右)

今回は、11月に開催される全日本民医連北海道・東北地方協議会中堅薬剤師研修会の講師との打ち合わせを兼ねて、8月28日、29日に仙台で行われた第17回日本褥瘡学会学術集会に参加しました。日本褥瘡学会では、褥瘡認定師の普及に努めているように、現在、日本褥瘡学会認定

師は538名にとどまっておらず、まだまだ普及しておらず、国に働きかけるインパクトをもつには、1000名以上を目指し活動を広げなければなりません。今後、薬剤師も活躍できる分野であることがわかりました。薬剤師の認定師は61名とまだまだ少ない現状です。認定師の資格は、多職種でチーム医療の中で、最低限の褥瘡の知識があるという証明になるものです。やはり、それぞれの職種での視点があり、チームになることで、患者様に最高の医療を提供できるようになるのです。それぞれの職種が、同じベクトルに向かい業務していくことが大切です。

ファルマ在宅推進委員会学習会

弘前調剤センター 薬剤師 佐藤 武志

日本褥瘡学会学術集会 in 仙台

藤代薬局 薬局長 相馬 涉

今回は、11月に開催される全日本民医連北海道・東北地方協議会中堅薬剤師研修会の講師との打ち合わせを兼ねて、8月28日、29日に仙台で行われた第17回日本褥瘡学会学術集会に参加しました。日本褥瘡学会では、褥瘡認定師の普及に努めているように、現在、日本褥瘡学会認定

師は538名にとどまっておらず、まだまだ普及しておらず、国に働きかけるインパクトをもつには、1000名以上を目指し活動を広げなければなりません。今後、薬剤師も活躍できる分野であることがわかりました。薬剤師の認定師は61名とまだまだ少ない現状です。認定師の資格は、多職種でチーム医療の中で、最低限の褥瘡の知識があるという証明になるものです。やはり、それぞれの職種での視点があり、チームになることで、患者様に最高の医療を提供できるようになるのです。それぞれの職種が、同じベクトルに向かい業務していくことが大切です。

戦跡めぐりに参加して

ファルマ浪岡薬局 主任 小田桐 徳子

9月27日(日)、ファルマが初めて企画した戦跡めぐりで八戸要塞を見に行ってきました。お子さんを合わせて28名参加のバスツアーです。天気に恵まれ、最高の遠足日和でした。



古里副館長(前列左から4人目)を囲んで

まずは南郷歴史民俗資料館で八戸市博物館の古里淳副館長からお話を伺いました。昭和2年に日米親善目的で贈られた青い目の人形「メリーちゃん」とお返し日本人形「青森睦子さん」の秘話や、太平洋戦争末期に本土決戦に備えて、八戸では館・是川・島守地区を重点にコンクリート製のトーチカや防空壕が築かれたことなどです。実際に案内してもらいましたが、防空壕の入口は目立たなく、入るのに難儀しそうです。中は6畳ほどの広さです。幸い実戦で使われることはありませんでしたが、

現在でも山中に多くが残されているそうです。軍の機密事項で村人も知らされていませんでした。高台から島守地区を見下ろして、もし米軍が上陸していたらここで本土決戦になったかもしれないと思つた時、沖縄が思い起こされました。お勉強の後はお楽しみみの昼ごはん。八食センターであらかじめ注文していた海鮮や店内で調達したお刺身などで楽しみました。中には七厘村で貝づくしだった方も!!

家族参加で楽しみながら学んでみようと思つた県内戦跡めぐり。下北などにも戦跡あるようです。次の機会がありましたら、皆さんもぜひ参加してくださいね。

青年平和学習

三沢ワールドワーク

ファルマツ谷薬局 須藤 江利加

9月12日〜13日、三沢ワールドワークに参加しました。

二日目は、三沢航空祭を見学しオスプレイを見てきました。

今回参加をして感じたのは、三沢市に住む人たちは騒音や危険と隣合わせで生活をしており、それは今に始まったのではなく、悩み苦しんできた歴史があることです。また、オスプレイのように、いつ落ちるかも

わからないような危険な物は、日本にあつてはならないと思います。

今回学んだ三沢市の実態やその歴史を、一人でも多くの方に伝えていかなければならないと思いました。

わが国は、太平洋戦争末期に本土決戦に備えて、八戸では館・是川・島守地区を重点にコンクリート製のトーチカや防空壕が築かれたことなどです。実際に案内してもらいましたが、防空壕の入口は目立たなく、入るのに難儀しそうです。中は6畳ほどの広さです。幸い実戦で使われることはありませんでしたが、



オスプレイの前で

事務基礎研修に参加して

弘前調剤センター 薬事課 佐々木 良太

9月25日(金)青森市の県民福祉プラザで事務基礎研修が行われました。参加総数は7名と少なかつたのですが、その分全員と接する機会があり良かったと思えます。

研修内容は高齢者疑似体験、先輩の経験から、阿部主任が講師を務めたビジネスマナー講習、グループワークでした。疑似体験では普段何気なくしている行動が全く思うようにいかず、階段や暗い所がとても

怖く感じました。高齢の方に対しては踏み込みすぎない程度に見守るような心がけたいです。ビジネスマナー講習では挨拶、言葉遣い、電話応対など事務職員の基本を学びました。

今回の研修を通して、1年後どうなりたいかを改めて考え直すことができました。今後は理想の自分になるため、より一層頑張っていきたいと思っています。



講義を受ける参加者のみなさん

第6回 平和を考える 県民のつどい

黒石薬局 成田 なつみ

9月13日(日)、アピオ青森にて「第6回平和を考える県民のつどい」が開催されました。

「どうれつしやがやってきた」という絵本の原作者である小出隆司氏が、平和を訴える為に自身の幼少期

に体験した戦争のお話や、絵本が誕生した経緯について講演して下さいました。

この絵本は、太平洋戦争後に全国で唯一生き残った東山動物園(名古屋市のゾウを見る為に、遠くから子どもたちが特別列車で名古屋に来た事実を基に描かれています。

戦争で失った命は人間だけでなく動物たちも被害を受けていたことに心が痛みました。絶対に争いは繰り返してはいけません。

講演後、絵本を基に作られた合唱構成も行われ、大人と一緒に子どもたちが一生懸命歌っている姿にとっても感動しました。この合唱構成は全国各地で行われているそうです。



合唱する子どもたち

あの頃のわたし

弘前調剤センター 薬事課 鈴木 菜夏

この写真は私が5歳になる頃でしょうか。動物園に行ったときに撮ったものです。小さいときから食べることが大好きで、幼少期の写真は何かを食べているものが多いです。母は食べることや片づけることなど、なるべく自分でできるようにあまり手を貸さなかったようです。

1歳を過ぎたころ、母は私にそうめんを1人で食べさせようとテーブルにそうめん、右手にフォークを用意してくれました。しかし私はフォークでうまく食べられず、何を思ったのか左手でそのままそうめんを食べようとして顔中そうめんだらけにして母を困らせていたようです。

また、小さい頃からよくヨーグルトを食べていました。母は「ちゃんと片付けもするんだよ。」と言って私に渡してくれました。そして片付けができるようになった私は褒められていました。しかしある日母は気付いたのです。スプーンの数がどんどん少なくなっていることに。母は私がヨーグルトを食べたあとの容器と一緒



お姉ちゃんとお友達と(右端が菜夏さん)

と一緒にスプーンを捨てているのを見て苦笑していたようです。

そんな母の育て方もあり、今では整理整頓が好きになりました。最近は少しさぼり気味ですが、時間を見つけて身の回りを綺麗にしていきたいです。



全国からの参加者の皆さん

9月27日(日)〜29日(火)に行われた第36回民医連全国青年ジャンボリーin岡山に参加しました。この「全国ジャンボリー(以下JB)」は「JB行動提起」を実践する場として位置付けられています。行動提起の前文では「JBがあるから民医連を辞めなかつた」とJBが民医連の未来を担う青年たちにとって共に学び成長し合える場として大きな役割を果たしていることが書かれています。しかしその一方で、「牽引する人がおらず、学習の機会が少なく交流中心になつてしまふ」「民医連とは何かを理解することができず、

次世代の担い手づくりの場と実感できない」などの意見もあり、JBが民医連職員育成の場として忘れられつつあるのではないかと、といったことも示唆されていました。私も参加する前は、民医連職員育成の場としての「ジャンボリー」に疑問がありました。しかし、今回この全国JBで、各都道府県から集まった青年職員と、民医連として自分たちの地域ではどういう取り組みをしているか、取り組みに対してどんな想いをもっているか。ここでしかできない語り合いを通して、「ジャンボリー」という場



同じグループの皆さんと(前列左から3人目樋口さん)

所が民医連職員育成の場として大きな役割を担っていることを深く実感することができました。今度はここでの経験を活かして、参加する側ではなくはたらきかける側としてJBの活動に参加していきたいと思いました。財政活動にご協力頂いた職員の皆様や、行ってみたいかと声をかけて下さった上司の方、JB委員の方、ありがとうございました。

第36回 民医連全国青年ジャンボリー in岡山

本部 樋口 友里

電話対応コンクール

9月16日(水)弘前ホテルニューキャッスルで電話ユーザ協会主催電話対応コンクール弘前・五所川原地区大会がありました。ファルマからは樋口友里さんと佐々木良太さんが参加しました。連日遅くまで練習した成果をコンクールで発揮しました。



連日の練習頑張りました

津軽保健黒石支部健康まつり

8月30日(日)黒石西部地区センターで津軽保健黒石支部健康まつりが開催されました。こちらは黒石薬局の職員を中心に出演しました。当日は、OTC商品の販売の他にお薬の相談コーナーを担当しました。



私たちが頑張りました!!

津軽保健西北健康まつり

8月23日(日)に板柳多目的ホールあぶるで津軽保健西北健康まつりが開催されました。ファルマからはファルマ一ツ谷薬局の職員を中心に出演しました。当日は多くの方がファルマのブースを訪れにぎわいました。



ももレンジャーも応援にかけつけました